

【国際交流 実施結果報告書】

平成26年5月4日

公益財団法人 小川科学技術財団
理事長 小川 信也 殿

貴財団より助成のありました国際交流の実施成果について、下記のとおり報告します。

報告者名

木下幸治



記

1. 報告者に関する事項

所属機関名 学部・学科名、 (責任者)	岐阜大学工学部社会基盤工学科 助教
所属機関の 所在地、連絡先	〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 (電話) 058-293-2414 (FAX) 058-293-2398

2. 共同開催者又は後援者に関する事項

名称、氏名	所属機関名・学部名・役職
(名称)	
(氏名) ささきえいいち 佐々木栄一	東京工業大学 大学院理工学研究科土木工学専攻 准教授
(名称)	
(氏名) すずきけいご 鈴木啓悟	福井大学 大学院工学研究科 原子力・エネルギー安全工学専攻 講師
(名称)	
(氏名)	

3. 会議の内容に関する事項

(1) 会議の名称 ASIA BRICOM (ASIA Steel Bridge Competition) 2014
(2) 開催場所及び開催地 競技 (岐阜大学、岐阜大学内)、エクスカージョン (白川郷、高山)
(3) 開催期間 平成 26年 3月 18日 ~ 平成 26年 3月 22日 (5日間)
(4) 参加者数 135人

4. 会議の経過と成果及び特色に関する事項

※1 下記には会議の意義、成果・特色の概要を簡潔に記載下さい。

なお、会議の経緯、具体的内容、結果の詳細を別紙(A4サイズ)2～3枚程度で作成し、添付して下さい。(開催要項等でも可)

※2 会計報告の概略も記載下さい。(学会等で作成したもので結構です。)

ASIA BRICOM (ASIA Steel Bridge Competition) 2014 は、2014年3月18日～22日の期間に岐阜大学にて開催した。ASIA BRICOM は今大会で7回目であり、主に我が国、台湾、タイの3か国の大学が熱心に参加している。今大会には国内から5大学、タイから6大学、台湾から1大学が参加した。ASIA BRICOM の日本での開催は今回が初めてである。本大会は、アジア諸国の大学生達に、鋼橋の設計、製作、架設の一連の流れを模型橋梁により実際に体験し、その活動を通じて、

－共同技術に関する技術

－基礎的工学知識を応用する技術

－プロジェクト実施に際し生じる問題の解決方法

等を習得することを目的とするとともに、アジア諸国の大学生達のグローバル化を目的としている。

今大会の結果として、運営に関しては、大会初日にホスト大学の運営を担う学生らが英語での対応、また異なる価値観を持つ国外の学生の主張に慣れていないこともあり、運営がスムーズではなかったが、徐々に身振り手振りのようではあるが英語での対応、国外学生の意見を理解できるようになり、順調に運営できるようになった。運営に関わった本学学生のグローバル化も一つの狙っていたため、上々の成果が得られたものと思われる。

大会の競技結果については、これまで我国からの参加大学が優勝、準優勝となる大会が多かったが、今大会ではタイからの参加大学が総合優勝、準優勝と躍進し、我国からの参加大学では横浜国立大学の総合3位であった。このように本大会では国外参加大学の顕著なレベルアップが見られる大会となり、各国のレベルが均衡し始めたことが伺える大会となった。なお、競技に関しては、競技終了後翌日の岐阜新聞(平成26年3月21日)に記事が掲載されている。

競技後のエクスカージョンでは、タイの大学からの参加者にとって初めてとなる雪を白川郷において見る事ができたとともに、高山を訪問し、日本文化の理解を深めた。また、エクスカージョン後に、ひるがの高原周辺のホテルに宿泊し、ホテルにおいて本大会の表彰式と、盛大な懇親会を催し、学生間の交流を深めた。懇親会では、各大学から、各国の言語を使用した出し物が披露されるなど、たいへん盛況であった。

本国際交流助成の予算使途については、大会期間中の宿舎と大会会場や懇親会会場などの移動のための大型観光パスの借上げ費用に主に利用させていただいた。

なお、本報告書に開催要項を添付している。

5. 今後の開催予定

ASIA BRICOM (ASIA Steel Bridge Competition) は毎年、日本、タイ、台湾が開催国を回りとしており、2～3年後に日本国内での開催を予定する。我国からの参加大学は東京工業大学、東京都市大学、横浜国立大学、岐阜大学、福井大学であり、次回日本開催は、東京開催の予定である。岐阜での次回開催はそれ以後と考えられるが、今回の開催成功を基に、次回の岐阜開催についても積極的に進める予定である。

[注1] 本報告書は、会議等の終了後3ヶ月以内に必ず提出してください。

[注2] (お願い)電子媒体の添付ご提供をお願いします。インターネットメールでの送付を歓迎します。

< E-Mail: info@ogawa-foundation.or.jp >

[注3] この報告書を当財団の事業報告書(年報)及び当財団のホームページに掲載することがありますので、予めご了承ください。

※当財団へのご意見・ご要望がございましたら、下記へご記入ください。

お寄せいただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

本助成を受け、上記大会が無事に開催できたことを、お礼申し上げます。本助成を受けていただければ、ここまでの成功は得られなかったと思われま。また、大会責任者が大学の助教という若輩者であったにも関わらず、ご快諾のうえ、助成いただいたことに対し、心からお礼申し上げます。

今回の大会開催の経験を糧に、今後も国際的な交流を深めることができるよう、一生懸命努めていく所存です。今後も何卒よろしく願いいたします。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

以上